

「障害のある人の自立（自律）した 多様な暮らしと家族のノーマライゼーション」

私たちは「障害があってもなくても全ての人々が人として尊ばれ、お互いを認め合って生きていける社会の実現」を願い、地域づくり学習会を重ねて来ました。今回は各メディアでも報道されている、障害のある人の暮らしの場をテーマに講演会を行います。

講師の新井たかねさんは、障害のある娘さんとの歩みの中で多くの人と出会い、さまざまな権利保障の運動にかかわり、道を切り開いて来られました。中でも、障害児者の暮らしの場の問題（※裏面に説明）は深刻で、現在、全国の当事者となつながら、国への要請行動等にも精力的に取り組んでおられます。

ここ廿日市市も例外ではありません。新井さんのこれまでの歩みや願い、大切にされていることなどお聴きし、障害児者を取り巻く暮らしの場の現状や課題について、共に考える機会にしたいと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



講師 **新井たかね** さん <全国障害児者の暮らしの場を考える会 副会長>

【講師プロフィール】

埼玉県川口市在住。重度心身障害のある娘さんと歩む中で、人間としての尊厳や権利を大切にする考え方を学び、権利保障実現の道を追求。

- ・学校教育の保障・全員就学の運動にかかわる。
- ・卒業後の働く場づくり運動にかかわり、現みぬま福社会理事。
- ・自立支援法違憲訴訟原告補佐人。
- ・「全国障害児者の暮らしの場を考える会」副会長として、暮らしの場の整備をめざし取り組み中。



日時

2025年 **6/28** (土) 10:00~12:00

会場

廿日市商工保健会館 交流プラザ 多目的ホール

参加費

500円

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※託児はありませんのでご注意ください

手話通訳
要約筆記
あります

共催：廿日市市障害者団体連絡会
全国障害者問題研究会廿日市サークル
社会福祉法人くさのみ福祉会

後援：廿日市市
廿日市市教育委員会
廿日市市社会福祉協議会

お申込み



障害児者の 「暮らしの場」 の問題とは？

現在、障害児者の暮らしは、自宅やグループホーム、入所施設などで営まれています。自宅での生活を支える居宅サービスのヘルパー不足や、施設などの社会資源の絶対的不足が慢性化しており、結果として多くの障害児者が家族介護に依存した生活を余儀なくされています。

2024年に専門家とNHKにより、都道府県を対象に「障害者の暮らしに関する自治体調査」が行われた結果、把握された人数だけでも、入所施設の待機者が全国で延べ約2万人、グループホーム待機者は約2千人。併せて約2万2千人の待機者がいることが判明しました。この事実がNHKで全国放送されたことにより、クローズアップされてきています。

障害のある子どもを養育する道のりは、大変な苦勞がありながらも、一歩ずつ成長していく我が子のたくましさ、感動や喜び、人とのつながりなどに励まされ親または家族も頑張っています。しかし親も年齢を重ねる中での最たる壁は、自分が先立った後の子どもの行く末のことです。日常生活における家族介護の大変さと併せて、死ぬ間際まで不安を抱えて生きなければならない現実があります。

《会場アクセス》



※お電話、FAXまたはメール、QRコードでお申し込みください。座席準備の関係上、事前の申し込みにご協力をお願いします。

※申込期限：2025年6月14日（土）

（※切以降は電話でお問い合わせください）

※駐車場に限りがあるため、ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

【お申込み・お問合せ】

FAX/(0829)31-2900（くさのみ作業所）

E-mail/kusanomi20@kusanomi.org

☎(0829)31-2800（担当：小出、矢部）

お名前	所属（個人・団体名等）	連絡先（電話・メール等）	備考（該当に○を）
(フリガナ)			車イス・手話・要約
(フリガナ)			車イス・手話・要約
(フリガナ)			車イス・手話・要約
(フリガナ)			車イス・手話・要約
(フリガナ)			車イス・手話・要約

※申込〆切 2025年6月14日（土）